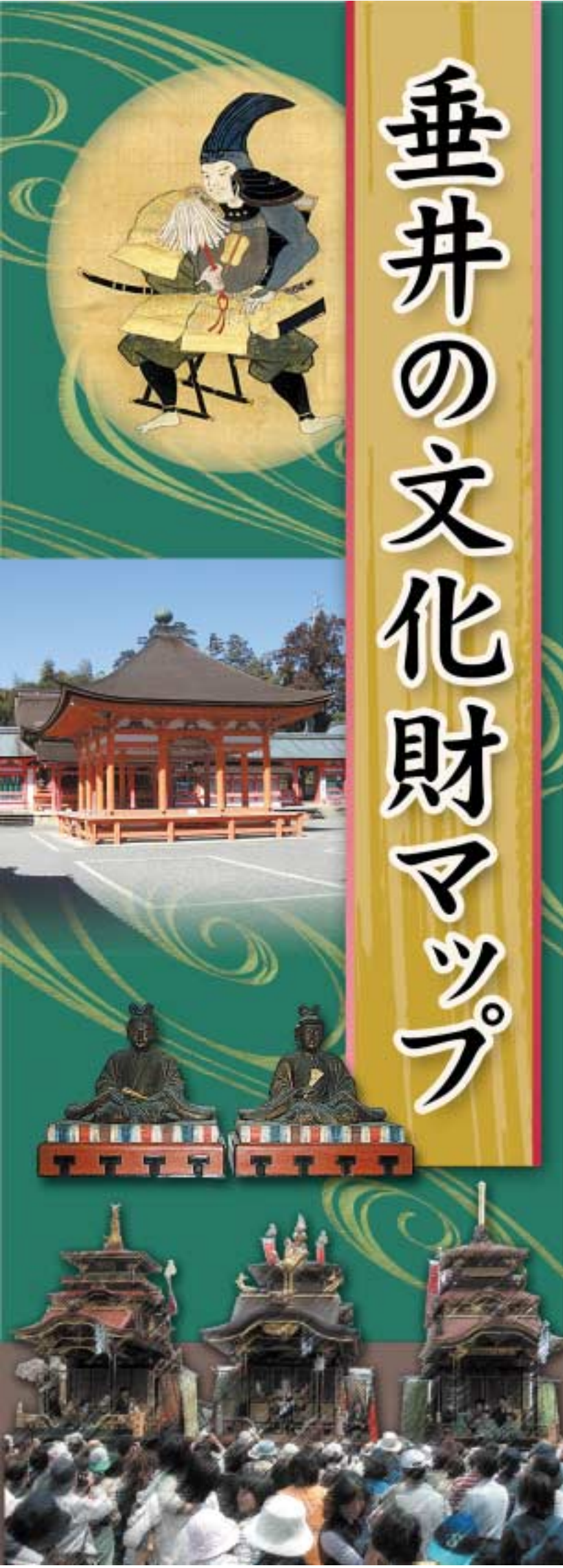




アクセス



アクセス

公共交通機関アクセス		
東京駅	東海道新幹線	名古屋駅
乗車時間 約1時間40分		
新大阪駅	東海道新幹線	米原駅
乗車時間 約40分		
名古屋駅	JR東海道本線	米原駅
乗車時間 約30分		
名古屋駅	JR東海道本線	米原駅
乗車時間 約60分		
車でのアクセス		
東京	東名(東京IC) → 名神	約4時間40分
名古屋	東名(名古屋IC) → 名神	約40分
大阪	名神(吹田IC) → 名神	約1時間40分
名神高速道路関ヶ原駅から車で15分 大垣ICから車で20分		

文化財見学のエチケット

- 見学の際は所有者の許可を得るのが基本です。事前に了承を得るようにしましょう。また、写真撮影等は許可を得て行いましょう。
- 所有者の都合を最優先にし、マナーを守って迷惑にならないようにしましょう。
- 周囲の環境に配慮し、草花や昆虫などを傷つけたり採取したりしないでください。

問い合わせ先
タレイベアセンター 〒503-2121 岐阜県不破郡垂井町2443-1
TEL 0584 23 3746/FAX 0584 23 3745

たるい いちり づか 垂井一里塚 国指定史跡 垂井121-2 江戸時代 昭和5年10月3日 一里塚は旅程の目安や旅人の休憩のため主要街道の1里（約4km）ごとに造られました。これは中山道沿いに建つ一里塚で、南側の1基が現存しています。	たるい まつり ひきやま 垂井祭曳軸 県指定重要有形民俗文化財 垂井地内 江戸時代 昭和36年6月19日 毎年5月の祭で3輦の軸が垂井地内を曳き回されます。軸の舞台の上では男児による子供歌舞伎が演じられます。鳳凰山、紫雲閣、攀鱗閣があります。	くうしよ あと 宮処寺跡 県指定史跡 垂井1503 奈良時代 昭和31年3月28日 県内最古社の白鳳寺院です。天平12年（740）に不破額宮や曳常泉とともに聖武天皇が訪れた寺とされています。付近から大量の瓦が出土しています。	はるおう やすおう はか 春王・安王の墓 県指定史跡 垂井1413-1 鎌倉時代 昭和43年8月6日 足利持氏の遺児・春王安王は京都へ護送中、垂井の金蓮寺で処刑されました。墓には3基の宝篋印塔があり、1基は乳母のものと考えられています。	たるい いずみ 垂井の泉 県指定史跡 垂井1351-1 ほか 昭和43年8月6日 ケヤキの根元から清澄な水が湧きでており、古くから人々に親しまれてきた泉です。11世紀に美濃国司・藤原隆経が泉を詠んだ和歌が伝わっています。	たるい おお 垂井の大ケヤキ 県指定天然記念物 垂井1348 昭和31年11月14日 高さ約25m、目通り約8.2m、樹齢約800年の巨木です。県史跡垂井の泉のほとりにそびえたつ姿は壮観です。これほどの巨木・老木は県下でも稀です。	たるい いくさ 垂井郷土酒火庵跡 町指定史跡 垂井1348 昭和32年6月15日 垂井宿本陣に生まれた榎原重斎が創設した私塾です。重斎は京都の久米塾舎のもとで儒学を修学した後、酒火庵で子弟の教育に励まれました。
ほうきょう さんりょう 宝篋印塔 町指定重要文化財(建造物) 垂井1608-1地先 南北朝時代 昭和36年4月15日 「康暦元年」（1379）の紀年銘があり、垂井町で最古の宝篋印塔のひとつです。宝篋印塔とは供養塔のことで、密教の信仰により多数造立されました。	はるおう やすおう もくぎょう 春王・安王木像 町指定重要文化財(彫刻) 垂井1609-1 室町時代 昭和36年4月15日 関東公方足利氏と関東管領上杉氏の争いで敗れた足利氏の子・春王安王は京都へ送られる途中、垂井で処刑されました。これを悲しんだ時宗の本山遊行寺住職が自ら刻んだ木像です。	たるい おいわけ どうぶよう 垂井追分道標 町指定史跡 垂井2327-2 江戸時代 昭和62年2月15日 垂井宿問屋・奥山文左衛門が宝永6年（1709）に建てた。中山道と美濃路の追分道標です。「是より右東海道大垣みち 左木曾街道たぐみみち」と書かれています。	もやま こふん 喪山古墳 町指定史跡 垂井1966ほか 昭和32年2月15日 周囲約200m、高さ約40mの瓢箪形の山で、別名葬送山とも呼ばれます。天稚彦伝説の喪山ともいわれ、円墳か前方後円墳ではないかと推定されています。	かみ やぶか 紙屋塚 町指定史跡 垂井1337-2 平安時代 昭和32年6月15日 奈良時代、美濃国の官設抄紙場があり、美濃紙発祥の地とされています。平安時代には紙漉きの技術者宇保良信がこの紙屋に勤めていた記録が残っています。	つくり ぎ づか ばしろう おもく ぞう 作り木塚と芭蕉翁木像 町指定史跡 垂井1234 江戸時代 昭和32年6月15日 本龍寺住職・規外と交友のあった芭蕉が、元禄4年（1691）に同寺を訪れ「作り木の庭をいさめる時雨かな」と詠んだことから建立された塚です。	ながし やしき あと 長屋氏屋敷跡・ツバキ 町指定史跡・天然記念物 垂井1259-1 鎌倉・室町時代 昭和32年2月15日・昭和54年7月11日 長屋氏は鎌倉中期に相模から垂井に移り住んだ家族で、その屋敷は天明8年（1788）には1.3haありました。後光厳天皇が垂井行幸時、この屋敷を訪れています。
なんくう じんじや はんてん 南宮神社本殿ほか 国指定重要文化財(建造物) 宮代1734-1ほか 江戸時代 昭和41年6月11日・昭和46年12月28日 寛永19年（1642）、徳川家光の発願により再建された社殿です。再建時の造営文書が現存しており、当時の建築技術などが窺える貴重な資料となっています。	ほこ（むめい） たちめい やすみつ たちめい さんりょう 鉾（無銘）・太刀銘康光・太刀銘三条 国指定重要文化財(工芸品) 宮代1734-1 平安・室町時代 大正13年4月15日、大正14年4月24日 鉾は大和千手院派の流れを汲む刀工によるもので、この種の鉾は正倉院以外ではみられません。初代三条宗近の刀は平安時代の県下随一の名刀です。	べに（むめい） たちめい やすみつ たちめい さんりょう 紅糸中白威岡丸 県指定重要文化財(工芸品) 宮代1734-1 室町時代 昭和52年3月11日 黒漆盛上体小札製の本体に、鉄小札と革小札をまぜています。金工・染色など製作当初の特徴をよく保っています。斎藤道三が使用したものと伝えられています。	なんくう たいしや はんてん じんじや はんてん 南宮大社神事芸能緒資料 町指定重要文化財(古文書) 宮代1734-1 江戸時代 昭和33年7月15日 南宮大社の例大祭の様子を描いた絵巻物です。神輿渡御式や蛇山、還幸の舞などが描かれ、江戸時代当時の祭典の様子がよくわかる資料です。	なんくう じんじや はんてん 南宮の神事芸能 国指定重要無形民俗文化財 宮代1734-1 平安時代 昭和59年1月18日 例大祭のとき行われる御田植神事、蛇山神事、3種の還幸舞の計5つが指定されています。本社には、祭神金山彦命の象徴である擬宝珠が飾られています。	なんくう たいしや はんてん 南宮大社神輿 町指定重要文化財(工芸品) 宮代1734-1 江戸時代 昭和57年3月2日 例大祭の神輿渡御式で使われていた神輿で、寛永19年に製作されたものです。中央に大日如来を配し、409尊の仏、菩薩、明王、天部の諸尊が配置されています。	しんぜん はんてん さんりょう はんてん 真禪院三重塔・本地堂 国指定重要文化財(建造物) 宮代2006 江戸時代 昭和2006年9月27日 元は南宮大社内の南宮宮にありましたが、明治の神仏分離時に現在地に移築されました。妻飾りや幕殺の彫刻に江戸時代初期の技法がみられます。
はんしやう 梵鐘 国指定重要文化財(工芸品) 宮代2006 奈良時代 昭和32年2月19日 平安時代中期以前のものでいわれ、美濃国最古の梵鐘とされています。垂井の清水から出たという伝承や、宮処寺のものとも伝えられています。	しやう ろう 鐘 楼 県指定重要文化財(建造物) 宮代2006 江戸時代 昭和40年2月9日 三重塔と同じく、明治の神仏分離時に南神宮寺から移築されたものです。弓形に反った梁や、くりぬいた彫刻に当時の優れた技法が窺えます。	もくぎょう やくしん さんりょう さんりょう 木造薬師如来立像 県指定重要文化財(彫刻) 宮代2006 平安時代 昭和40年2月9日 楠の一本造りで、平安時代末の作といわれ、左手に薬壺をもち、右手は施無畏印を結んでいます。現在は木地ですが、元は彩色されていたとおもわれます。	てつとう 鉄 塔 県指定重要文化財(工芸品) 宮代2006 室町時代 昭和31年3月28日 源頼朝の死後、妻の北条政子が頼朝の菩提を弔うために寄進したものです。関ヶ原合戦で破損し、初層と二層の部分だけが現存しています。	かんのおんどう 観音堂 町指定重要文化財(建造物) 宮代2006 江戸時代 昭和59年1月18日 元は宝珠院観音堂といい、南宮山頂付近の高山社付近にありました。「木曾路名所図説」にも描かれています。明治の神仏分離時に現在地に移築されました。	けんぼん たいぎやう かいまん だんざう 絹本胎蔵界曼荼羅図 町指定重要文化財(絵画) 宮代2006 江戸時代 昭和57年3月2日 元禄7年（1694）京都で新調された曼荼羅図です。中央に大日如来を配し、409尊の仏、菩薩、明王、天部の諸尊が配置されています。	みやてい ほうし じやう 宮代廃寺跡 県指定史跡 宮代807ほか 昭和43年8月6日 昭和42・47年に発掘調査が行われ、瓦積基壇をもつ塔跡が確認されました。不破額大領の宮勝木実の氏寺ではないかと考えられています。
なんくう じんじや はんてん さんりょう はんてん 南宮神社経塚群附出土品一括 県指定史跡 宮代2616 鎌倉時代 昭和43年11月11日 南宮山頂付近に如法経と刻まれた石柱があり、一部に石が敷き詰められています。伊勢湾台風時に地下から経巻が出土し、南宮大社に納められています。	もりあお がい ろう せい ち モリアオガエル群生地 県指定天然記念物 宮代笹石子地区 昭和32年7月9日 北海道以外に全国に生息しています。町には数が減少しています。町には10箇所の生息地があり、6月中旬から7月にかけて泡状の卵を産卵します。	ふ くれ さい ほう かく 不破惟益の墓 町指定史跡 宮代1641 江戸時代 昭和53年11月17日 惟益は南宮大社の代官大友職の不破家に生まれました。江戸時代初期の神道学者です。いわゆる「不破神道」の学説を大成し、「南宮神記」の著書も残っています。	おさたけ たいこ だう 表佐太鼓踊 県指定重要無形民俗文化財 表佐保育園園庭 昭和36年6月19日 早稲の際、雨乞いで太鼓を打ち鳴らしたのが起源の祭りです。大きいものでは直径1.5m、重さ50kgを越す大太鼓を腰にくくつけて音頭にあわせて踊ります。	せんく さと 千句の里 町指定史跡 表佐1526-1 室町時代 昭和59年1月18日 文明8年（1476）3月6日から3日間、連歌の会が催されたため、千句の里と呼ばれています。応仁の乱の戦火を逃れ美濃入りしていた専順12人に催されました。	かつみや こふん 勝宮古墳 町指定史跡 表佐1729 古墳時代 昭和35年1月26日 勝神社本殿北に所在する全長30mの前方後円墳です。後円部の一部が残っていますが、大半は滅失しています。武内宿禰の墓として信仰を集めています。	まつい ながさだ ほか 松井永貞の墓 町指定史跡 表佐1762-3 江戸時代 昭和35年9月9日 永貞は垂井町表佐に生まれた江戸時代末期の刀匠です。初め大垣赤坂で修行し、その後松江・京都・江戸青山で鍛刀、独自の鍛刀法を編み出しました。
おさ せいそく ちゆひけ 表佐ハヨシ生息地 湯壺地 町指定天然記念物 表佐1606-4 江戸時代 昭和32年6月19日 体長4～6cmの淡水魚で、岐阜・三重・滋賀県にのみ生息します。水温20℃を越えると生息できないため、清浄な冷水地が必要で、	くりはるれんり 栗原連理のサカキ 県指定天然記念物 栗原 昭和50年12月10日 栗原山の中腹にある樹高11m、樹齢約400年の巨木です。根元で2幹に分かれますが、再び癒着して連理の状態になります。緑結びの木と伝えられています。	くりはるれんり ほう かく 栗原九十九坊跡 町指定史跡 栗原2237 室町時代 昭和32年6月15日 奈良時代～鎌倉初期、100以上の僧坊が栗原山一帯に営まれていました。2幹に分かれますが、再び癒着して連理の状態になります。緑結びの木と伝えられています。	くりはるれんり ほう かく 栗原古墳壱号墳及び貳号墳 町指定史跡 栗原2280-1 古墳時代 昭和42年1月26日 南宮山麓に位置し、6基の古墳で構成される栗原古墳群の2基です。1号墳は円墳で別称黄金墳と呼ばれ、2号墳は約44mの前方後円墳です。	みの こふん さん 美濃国府跡 国指定史跡 府中1874ほか 奈良・平安時代 昭和35年1月26日 奈良時代、美濃国を統括していた役所の遺跡です。平成3年度からの発掘調査で、政庁など中心施設の配置や建て替えの変遷過程が明らかになっています。	みんあんじ いしとう かく 民安寺の石燈籠 町指定重要文化財(建造物) 府中1586-5 南北朝時代 平成19年4月15日 後光厳天皇が訪れたという民安寺の石燈籠は「民安寺」の刻字があり、民安寺がこの付近にあったと推定されています。	にんしやうじや まふん 忍勝山古墳 町指定史跡 府中2086 古墳時代 昭和32年6月15日 直径60mの帆立貝式円墳です。5世紀前半に築造されたとおもわれます。鉄鍬や銅鍬、直刀、香が状のものが出土したと伝えられています。
そう（じせい）ち スズカケ草（生自地） 町指定天然記念物 府中 昭和32年2月15日 全長85mの前方後円墳で、濃尾平野を一望できる山頂部に立地しています。明治初年頃に出土した15点の石製品は現在東京国立博物館に所蔵されています。	おやがたに こふん 親ヶ谷古墳 町指定史跡 市之尾569ほか 昭和32年6月15日 栗原山の中腹にある樹高11m、樹齢約400年の巨木です。根元で2幹に分かれますが、再び癒着して連理の状態になります。緑結びの木と伝えられています。	たけなかに じん やと 竹中氏陣屋跡 県指定史跡 岩手619-2 江戸時代 昭和31年3月28日 豊臣秀吉の軍師・竹中半兵衛の寺・重門が構えた陣屋です。屋敷の大半は消失していますが、櫓門や門扉、漆、石垣は幾度かの修復を経て現存しています。	ほうき さいしやう ぐんりやう 宝篋印塔・五輪塔 町指定重要文化財(建造物) 岩手1308 南北朝・桃山・江戸時代 昭和39年11月15日 宝篋印塔3基のうち1基には慶長16年（1611）、五輪塔には天正9年（1581）の紀年銘があります。宝篋印塔のひとつは岩手城主・岩手彌正の供養塔だと伝えられています。	たけなかに はんべい しげはるやう 竹中半兵衛重治像 町指定重要文化財(絵画) 岩手112 昭和36年4月15日 半兵衛の菩提寺である神護寺に伝わる画です。半兵衛の寺・重門が神護寺と親交があった縁で、大学頭藤原信篤がこの像の讃を書いたといわれています。	ほだい じやに ぐち 菩提寺銅口 町指定重要文化財(工芸品) 岩手1 桃山時代 昭和36年4月15日 菩提寺は伊福氏が開基した寺です。永正4年（1507）に、宮田郡（現本巣市宮田）に南宮神社領があったとみられる銘が刻まれています。	いね さいしや ぐんりやう 岩崎神社棟札 町指定重要文化財(典籍) 岩手1262 室町時代 昭和32年6月15日 岩崎神社は、岩手や府中、栗原などに領していた岩手彌正によって造営されました。創建時の文正元年（1466）の棟札など6点が指定されています。
ほだい じんじや さん 菩提山城跡 町指定史跡 岩手3237 桃山時代 昭和32年6月15日 標高401mの山頂に所在、東西約150m、南北約300mを測り、その規模は西美濃最大殿です。竹中半兵衛の父・重元が永禄2年（1559）築城しました。	いわて 若手のヤマモモ 町指定天然記念物 岩手2406-1 江戸時代 昭和32年6月15日 やせた土地でもよく育ちますが、暖地性のため、岐阜県内の自生地は垂井町周辺が北限といわれています。秋葉神社境内のものは樹高13.5m、目通り1.4mです。	つたて みやう さんりょう さんりょう 杖立明神逆杉御神木 町指定天然記念物 岩手3052-75 平安時代 平成2年9月5日 樹高30m、樹齢800年といわれる巨木です。十一面観音がヤマトタケルがイブキ山の荒神退治の際、杖として使ったスギの枝を地面に突き刺したものだといわれています。	もくぎょう さんりょう さんりょう 木造十一面観音立像・不動明王立像 町指定重要文化財(彫刻) 数原112 昭和50年12月15日 十一面観音は最澄作、不動明王は空海の甥・智達大師作と伝えられています。十一面観音は秘仏とされ、30年に一度開帳されます。	いぶき じんじや おお 伊富岐神社の大スギ 県指定天然記念物 伊吹1484-1 昭和50年12月10日 樹高約30m、目通り6.6mの大スギです。関ヶ原合戦のとき、社殿は兵火にかりましたが、ご神体はこのスギの幹に安置したため安泰だったと伝えられています。	いぶき じんじや さんりょう さんりょう 伊富岐神社経塚遺物 町指定重要文化財(工芸品) 伊吹1484-1 平安時代 昭和35年8月17日 大正15年、神社本殿再建の際、出土したものです。梵字の書かれたわらけは全国に数例しか現存せず、大変珍しいものです。現在の菩提樹は3代目のものです。	おおいしや かん さん 大石窯跡 町指定史跡 大石2172 奈良時代 昭和32年6月15日 美濃国府跡の北西約2.2kmに位置する窯跡で、国府や宮代廃寺に供給する瓦を焼いたとされています。昭和22年の道路拡幅工事の際、大量の瓦が出土しました。
あやど こふん 綾戸古墳 町指定史跡 綾戸907 古墳時代 昭和50年12月10日 直径40mの円墳で、幅7～8mの周溝の一部が残っています。円墳としては大型で、古墳時代後期の首長墓とみられます。須恵器の三足器が出土しています。武内宿禰の墓ともいわれます。	おかだしや ぐんりやう かく 岡田将監塚 町指定史跡 綾戸798ほか 平成元（1980）年3月29日 将監は江戸時代初期の美濃国の代官で、南宮大社の寛永の再建時の造営奉行を務めました。綾戸村と隣村との境界争いの解決にも尽力しました。	みのし まつなみき 美濃路の松並木 町指定天然記念物 町道垂井綾戸線、宇治カ（株）・R綾戸路跡 昭和45年11月4日 美濃路は中山道と東海道を結ぶ脇道です。かつては道の両脇に松が植えられていましたが、大半は消滅し、ここが美濃路に残る唯一の松並木です。	もくぎょう さんりょう さんりょう 木造阿弥如来坐像 町指定重要文化財(彫刻) 綾戸438 平成8年4月9日 ケヤキの一本造りで、平安時代中頃の作とおもわれます。指で輪をつくる説法印の結び方が左右の手で異なるという、大変珍しい説法印を結んでいます。	かんしやう じや はんてん 願證寺建物 町指定重要文化財(建造物) 平尾1 江戸時代 昭和34年3月30日 天文年間（1532-55）、蓮如の曾孫・證榮が平尾願證寺を創建、この願證寺に改号されました。現本堂は宝暦年間（1751-63）に建立されたものです。	かんしやう じや はんてん 願證寺菩提樹 町指定天然記念物 平尾1 江戸時代 昭和35年7月9日 菩提樹の下でお釈迦様が悟りを開いたとされ、果実は数珠玉としても用いられるため、寺院に多く植栽されています。現在の菩提樹は3代目のものです。	みの こふん じんじや さんりょう さんりょう 美濃国分尼寺跡推定地 町指定史跡 平尾16 奈良・平安時代 昭和35年11月17日 美濃国分寺跡の南西約1kmにあり、国分寺と同じ軒瓦が出土しています。平成16年から発掘調査が行われ、尼寺建物の基礎の一部が見つかりました。